

解答

- 一 1 こおう 2 しゅしゃ 3 じゅうだん 4 ゆだ〔ねる〕 5 つら〔なる〕

- 二 1 推進 2 結束 3 巻頭 4 練〔る〕 5 裁〔く〕

- 三 問一 スタジオ
問二 波
問三 I エ II イ
問四 イ
問五 (父の)フィルムカメラへのこだわり。
問六 スタジオの
問七 ア
問八 ウ
問九 ア
問十 イ
問十一 エ
問十二 大判力

- 四 問一 十人十色
問二 ウ
問三 イ
問四 ウ
問五 描くこと(と)見るといこと
問六 ア
問七 一枚の絵であってもそのとらえ方は見る人の数だけあり、それぞれの心の中で無数の作品となって描きあげられるといこと。

- 五 問八 エ
問九 作品
問十 積極
問十一 エ
問十二 創られた作
問十三 イ
1 かげん 2 かすか 3 かたよる 4 かえりみる 5 かんきょう

解説

- 三 問一 直前に「入って左側が待合室。右手は更衣室と衣装ルーム。正面の受付を抜けた先がスタジオだ。」という記述があるので、明かりをつけた「ここ」が「スタジオ」であるとわかります。
- 問十一 ——線部二の前後に着目します。渡邊写真館では、斬新さやインパクトやアート性とは無縁の撮影をしており、また、目の前の五人家族は、斬新もインパクトも望んでいない、五人だけの、かけがえのない写真を

撮りにきているという内容から、緊張が抜けすぎないほんの短い一瞬をねらった父親のやり方が適していることがわかるので、選択肢エが選べます。

四

問六

——線部2の後で、一枚の絵を見ることについて説明しています。なんの関係がなくても、それを見てるのは、なんらかの関心があつてのことであり、見たいとのぞんでいるものを、心の中にみつめていると述べています。自分が創りあげた画面を見ていることから、選択肢アが選べます。

問十一

——線部6の後に着目します。創るというのを、カテゴリーにはめこみ、枠に入れて考えてしまうのはまちがいであり、絶対的な創造の意志、感動が問題で、心の中で創作が行なわれ、創るよるこびに生命がいきいきと輝いてくることがすばらしいと説明していることから、選択肢エが選べます。